



JAPAN JOINT STAFF PRESS RELEASE

<http://www.mod.go.jp/js/>

(お知らせ)

令和8年9月29日
統合幕僚監部

令和8年度日米共同統合演習 「Keen Sword 27」について

自衛隊と米軍は、下記のとおり令和8年度日米共同統合演習を実施します。
本訓練は、強固な日米同盟に基づき、日米の共同統合運用能力の維持・向上を図るものです。
本演習を通じ、自衛隊と米軍は、地域の平和と安定に積極的に貢献するための態勢と能力を維持・強化していきます。

記

1 演習の目的

各種事態における日米共同対処及び自衛隊の統合運用について演練・検証し、日米の共同統合運用能力の維持・向上を図る。

2 実施時期

令和8年10月19日（月）～10月29日（木）

3 実施場所

- (1) 自衛隊施設並びに在日米軍施設及び区域
- (2) 民間空港及び港湾
- (3) 我が国の公有地及び民有地等
- (4) 我が国周辺海空域

4 統裁官

- (1) 自衛隊 : 統合作戦司令官 海将 俵 千城
- (2) 米 軍 : 太平洋艦隊司令官 海軍大将 ステファン・ケーラー

5 主要訓練項目

- (1) 統合防空ミサイル防衛訓練
- (2) 共同統合対艦戦闘訓練
- (3) 陸上作戦訓練
- (4) 海上作戦訓練
- (5) 航空作戦訓練
- (6) 水陸両用作戦訓練
- (7) サイバー攻撃等対処訓練
- (8) 情報戦訓練
- (9) 統合通信訓練

- (10) 宇宙状況の把握等に関する訓練
- (11) 統合電磁波作戦訓練
- (12) 統合後方運用訓練
- (13) 機動分散運用訓練
- (14) 重要施設等防護訓練
- (15) 実証実験

6 実施部隊等

(1) 自衛隊

ア 幕僚監部等

統合幕僚監部、陸上幕僚監部、海上幕僚監部、航空幕僚監部及び情報本部

イ 陸上自衛隊

陸上総隊、各方面隊等

ウ 海上自衛隊

自衛艦隊、各地方隊等

エ 航空自衛隊

航空総隊、航空支援集団等

オ 共同の部隊

統合作戦司令部、自衛隊情報保全隊、自衛隊サイバー防衛隊、自衛隊海上輸送群等

(2) 外国軍隊

ア 米 軍

太平洋軍、太平洋陸軍、太平洋艦隊、太平洋空軍、太平洋海兵隊及び在日米軍

イ 豪 軍

国防軍統合作戦本部等

ウ その他

加軍、仏軍、独軍、蘭軍、新軍、比軍

7 演習参加規模（自衛隊）

人員約45,000名、車両約6,100両、艦艇約40隻、航空機約260機

8 その他

日米共同統合演習は昭和60年度に開始され、おおむね毎年、実動演習と指揮所演習を交互に実施しており、実動演習は今年度で18回目である。

令和8年度日米共同統合演習（実動演習）について（K S 2 7）

【演習の目的】

各種事態における日米共同対処及び自衛隊の統合運用について演練・検証し、日米共同統合運用能力の維持・向上を図るために実施します。

【演習の沿革】

日米共同統合演習は昭和60年度から開始され、概ね毎年、実動演習と指揮所演習を交互に実施しています。本年度は実動演習であり、今回で18回目の実施となります。

【演習の実施場所】

日本周辺海空域、自衛隊施設、米軍基地等において、様々な訓練を実施します。

【演習の実施期間】

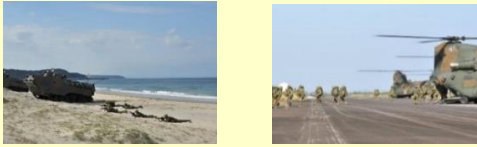
令和8年10月19日（月）から10月29日（木）までの間（本実施期間の前後 約1週間（基準）で準備期間及び撤収期間を設定）で予定しています。一部には夜間及び土日を含む演習となりますが、皆様の生活に支障がないよう十分に配慮いたします。

【演習の内容】

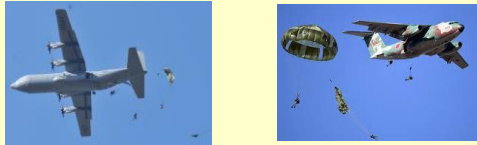
演習の目的に基づき、我が国防衛のための自衛隊及び米軍の行動を演練します。このため、陸上、海上、航空作戦及び統合輸送等の全てを包含した総合的な演習となります。我が国防衛のための自衛隊の即応性及び日米間の連携能力を向上させることを通じ、皆様の安全・安心確保に資することができます。なお、本演習の一部に同志国軍が参加（オブザーバー含む。）します。

令和8年度日米共同統合演習（実動演習）について

水陸両用作戦



空挺作戦



海上作戦



統合防空ミサイル防衛



共同統合対艦戦闘



その他関連する訓練（日本全国各地）

- 情報戦
- 統合後方運用（輸送・補給、衛生等）
- 陸上作戦
- サイバー攻撃等対処
- 宇宙作戦
- 統合電磁波作戦
- 統合通信
- 重要施設等防護（基地警備等）



※ 訓練期間中、航空機の移動に伴う燃料給油のため、日米の航空機が海上自衛隊鹿屋航空基地、奄美空港及び種子島空港及び徳之島空港を使用する予定です。なお、陸上自衛隊の航空機に限り、奄美駐屯地及び瀬戸内分屯地も使用する予定です。

※ また、演習前後の期間において、自衛隊の航空機が鹿児島空港を利用します。

令和8年度日米共同統合演習（実動演習）の 鹿児島県内における訓練について

本演習において鹿児島県内で実施する訓練は、

- ① 統合通信訓練
- ② 共同統合対艦戦闘、統合防空ミサイル防衛（高射部隊等の機動展開訓練）
- ③ 水陸両用作戦（着上陸訓練）
- ④ 陸上作战（対着上陸戦闘訓練等、情報収集訓練、訓練準備等、協同対空戦闘訓練、統合強制進入作战（目標搜索訓練））
- ⑤ 統合電磁波作战訓練
- ⑥ 統合後方運用（輸送・補給/衛生/その他）
- ⑦ 機動分散運用（大型機の一時展開）
- ⑧ 重要施設等防護（共同／協同基地等警備訓練、滑走路（被害）復旧訓練、立入検査訓練）

を予定しています。

なお、その他訓練を予定しておりますが調整中のため、整い次第追加する予定です。

熊本県、宮崎県及び鹿児島県で実施を検討している訓練内容

① 統合通信訓練

統合通信訓練は、通信回線を構成する訓練です。本訓練のため、陸上自衛隊の通信部隊が熊本県、宮崎県及び鹿児島県に展開し、統合通信回線を構成いたします。

訓練では実際に電波を発射いたしますが、住民の皆様の生活、民航機の運航等に影響しない周波数を使用します。

【期 間】令和8年10月19日（月）～10月27日（火）

【参加部隊】陸上自衛隊 西部方面システム通信群 21名（車両：10両）

西部方面後方支援隊 8名（車両：4両）

【実施場所】

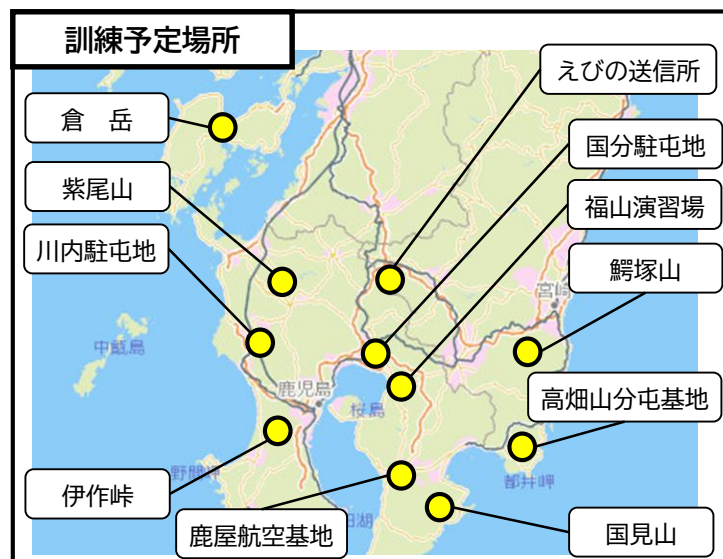
熊本県：倉岳（天草市）

宮崎県：鰐塚山（宮崎市）、えびの送信所（えびの市）、空自高畑山分屯基地

鹿児島県：紫尾山（薩摩郡さつま町）、伊作峠（日置市）

国見山（肝属郡肝付町）、海自鹿屋航空基地、陸自川内駐屯地、陸自国分駐屯地、

陸自福山演習場



訓練イメージ



【無線搬送端局（中継）装置1号】

鹿児島県内で実施を検討している訓練内容

⑤ 統合電磁波作戦訓練

統合電磁波作戦訓練は、四国沖で実施される共同統合対艦戦闘等に連携して行われます。

本訓練のため、海上自衛隊鹿屋航空基地所属の航空機が四国沖で実施される共同統合対艦戦闘等に参加するとともに、海上自衛隊岩国航空基地の航空機が同じく本訓練に参加するため、鹿屋航空基地に事前に展開します。なお、本訓練では電波の収集のみであり、実際に電波を発射する予定はありません。

【期 間】 令和8年10月22日（木）～10月29日（木）（昼夜間飛行する（23：00～06：30の時間帯含む））

【参加部隊】 海上自衛隊鹿屋航空基地所属	哨戒機「P-1」	×1機	約10名
海上自衛隊岩国航空基地所属	多用機「UP-3D」	×2機	約20名
	多用機「OP-3C」	×1機	約20名
	多用機「EP-3」	×1機	約15名

訓練予定場所

（鹿児島県）

海上自衛隊
岩国航空基地

海上自衛隊
鹿屋航空基地

四国沖

展開する主要装備品



海上自衛隊 哨戒機（P-1）



海上自衛隊 多用機（UP-3D）



海上自衛隊 多用機（EP-3）



海上自衛隊 多用機（OP-3C）

鹿児島県内で実施を検討している訓練内容

⑦ 機動分散運用（大型機の一時展開）

海上自衛隊の鹿屋航空基地に所属する固定翼哨戒機を母基地以外の民間空港に機動展開させ、燃料補給、訓練用模擬弾薬搭載等を実施する。

【期 間】令和8年10月19日（月）（予備日10月20日（火）、10月29日（木））

【参加部隊】海上自衛隊：第1航空群 固定翼哨戒機（P-1）×1機

訓練予定場所



訓練イメージ



民間空港における弾薬搭載
（イメージ）

鹿児島県内で実施を検討している訓練内容

⑧ 重要施設等防護（滑走路（被害）復旧訓練）

海上自衛隊の部隊が鹿屋基地において、滑走路（被害）復旧訓練を実施します。なお、爆破薬を使用した訓練は実施しません。

【期 間】令和8年10月22日（木）～10月26日（月） ※前後約1週間程度の準備・撤収期間を設定
 【参加部隊】海上自衛隊：第1航空群 約20名、第2航空群 約16名 第4航空群 約16名
 第31航空群 約20名

